

# 愛子内親王殿下 ご誕生をお祝して

京都の躰を語る女性の会会報

# おはようさん

## 第七号

平成十三年は暗い話題の多い年でしたが、師走に入った十二月一日、皇孫敬宮愛子様ご誕生のニュースに接し、日本中が喜びに沸きました。

奉祝インタビュー

### 三木内閣府事務次官に聞く

内親王様ご誕生の報に、気の早い一部のマスコミはすぐさま皇位継承を云々しましたが、そう慌てずにまずは心よりお慶び申し上げたい、というのがほとんどの日本人が抱いた感慨ではなかったでしょうか。

私どもも、皇太子妃殿下雅子様を思うと、ほっと胸を撫で下ろしたいような気持ちでございました。

事務局では国民挙げてのご慶事に接し、宮内庁の三木善明内閣府事務官にお話を伺いました。三木氏は現在、宮内庁正倉院事務所にご勤務ですが、京都は伏見の御香宮累代の社家にお生まれで、今回のインタビューも快くお引き受けくださいました。

**\*今日はお忙しいところをありがとうございます。まずは愛子内親王様ご誕生のご感想をお聞かせください。**

**三木** 春にご懐妊を知りました時から、今か今かと心待ちにしておりました。本当にお目出度く、この上もない喜びです。これは国民の皆様も同じお気持ちではないで

でしょうか。

**\*皇孫のご誕生に伴う諸儀式にはどのようなものがありますか？**

**三木** 詳しくは宮内庁書陵部が発行している『明治天皇紀』をご覧になると良いと思いますが、簡単に言いますとご誕生までは内着帯の儀と着帯の儀があります。これは民間の着帯(腹帯)と同じですね。ご誕生後は、賜剣、命名の儀、賢所皇霊殿神殿に謁するの儀、御箸初めの儀、着袴の儀などでしょうか。民間

わたしたちは躰といういささか古びた言葉を持ち出し伝統と文化の町京都において今も息づく「躰」や「訓え」に学び語りから古くて新しい子育て文化を提唱します

京都の躰を語る女性の会

〒616-0022

京都市西京区嵐山朝月町68-8

京都府神社庁内

TEL075-863-6677

FAX075-863-6665

<http://www.net-k.co.jp/situke>

[situke@net-k.co.jp](mailto:situke@net-k.co.jp)



宮内庁ホームページから  
<http://www.kunaicho.go.jp>



では、命名の儀はお七夜のことですし、御箸初めはお喰初め、着袴は七五三参りですね。

\* そうした宮中のお祭りやしきたりは、他にも私たちの生活に多く見られますね。

三木 宮中をはじめ、貴族や武家の文化が民間にも広まった例はたくさんありますね。ご皇室の意味は、そうした文化伝承の面からも考えてほしいと常々思っています。

\* 例えはどういったものがありますか？

三木 言葉などはその典型でしょうね。お水のことを「おひや」といいますが、これは御所言葉です。他にも「まな板／おまな／おぐし／おつむ／おむすび」などは皆さんもよくご存知でしょう。鯛は「おひら」、鯖は「さもじ」、海老は「えもじ」、お寿司は「おすもじ」、豆腐は「おかべ」、女性の生理は「まけ」といいます。

\* 文化伝承の側面からいいますと、宮中祭祀も重要です。すね。

三木 そうですね。特に「京都の躰を語る女性の会」との関連でいいますと、掌典職、特に内掌典(女性)のことは是非知っていただきたいですね。

\* 不躰な質問ですが、掌典さんは皆さん公務員ですか？

三木 御承知のように国家公務員には事務官と技官があり、わたしはその事務官ですが、ここまでは公務員です。それに対して掌典職は、内廷費、すなわちお手元金で運営されていて、天皇の私事行為をお手伝いします。

\* 内掌典さんは、賢所のご奉仕をされるとお聞きしました。やはり男子禁制ですか？

三木 そうです。男子禁制は勿論のこと、大変厳しい生活を強いられます。まず、未婚の処女であること、住まいは賢所の候所で、洋服を持っていません。着物できて、着物がさがるといわれるように、洋服の下着もつけません。髪は上げていて、すます(シャンプーのこと)は、「まけ」の後だけで、潔斎はあっても入浴がありません。こうして清めを第一に考えた生活をし、賢所のご奉仕にあたります。

\* もっとお聞きしたかったのですが、時間がきてしまいました。最後に当会へ何かひとことお願いします。

三木 先ほどもいいましたように、文化伝承の側面にもっとスポットが当てられる必要があると思います。皇室のこととなるとすぐに天皇制の議論になりがちですが、天皇が年間ご奉仕されるお祭りの多さや国民が知るだけでも皇室への印象は随分変わるのではないのでしょうか。わたしたちが豊かだと思ってきた暮らしに翳りが見え始めた今、生活を支える文化、家族を支える文化を見直す機会を愛子内親王様はお与えくださったのではないのでしょうか。

\* 今日本当にありがとうございました。



宮中三殿

## 歳時記の中の京

### おひなさん

京のおひなさんは、昔は四月に飾られる家が多かったのですが、近頃では、三月の方が多くなってきました。ナフタリンの匂ひの中、和紙から現われたおひなさんを緋毛氈の上に並べ終えると、色目の少ない部屋がはんなりしたものです。

お飾りの前で白酒を嘗めるようにいただき、「馳走を楽しみ、その後、お飾りの中の家財道具でままごとをして遊んだ思い出があります。おひなさんのご馳走はばら寿司、蛤のお汁、赤貝のてっぱえ(鉄砲和え)、身蜆の炊いたん(炊き合せ)、お菓子は「ひちぎり」と決まっています。

ばら寿司とは生物を使っていないちらし寿司のこと、ご飯の中にはちりめんじゃこが入り、上には味を付け、千切りにした黄湯葉を全面にちらし、椎茸、木の芽、紅生姜で飾ります。てっぱえとはぬたのこと。「ひちぎり」は宮中より出たもので、柄のないソーススプーンのような形の色餅で、くぼみの所に、こしあんが乗っています。楽しんだ後の大変なことは、この母のひと言につきまします。

「早よかたづけんと、お嫁さんに行かれへんえ！」でした。



● 体感型博物館「六條院ミュージアム」  
見学会のご報告

## 平安貴族の生活を体験

いにしへのロマンスに

想いを馳せたひととき

去る平成十三年十一月九日に昨年度四回目例会が開催されました。従来までの催しは、府内神社の祭典行事に併せて行うことが多かったのですが、今回はいささか趣向を変え、平安時代に花開いた我が国伝統の王朝文化を味わうべく、下京区の株式会社井筒さんにお邪魔しました。同社は社寺の祭典調度品や装束、有職織物などを幅広く扱っておられる京の老舗。社屋併設の風俗博物館に展示された「源氏物語・六條院ミュージアム」を見学した後、同館事務局長の江原永容氏による講演「平安後期の衣装と調度、実際に触れる」を聴講いたしました。

四分の一の迫力とリアリティに

思わずためいき

館内には、源氏物語に登場する光源氏の大邸宅六條院が、1/4スケールでフロアいっぱい具現化されていました。本格的な木材や金具などが施された屋敷の中に、当時の公家たちの雅やかな生活が見事なまでに再現されており、参加者の皆さんは優美な源氏絵巻の世界を堪能されました。

また講演会では、平安時代の貴族や庶民たちの暮らしぶりや、着物にまつわるお話に加え、家庭での躰についても話が及びました。当時は家にお客さま

がいらした折には必ず子供にも手伝わせ、実際に接待の仕方を見習わせたとか。今の時代にも十分通用する躰が、千余年以前から存在していたことに改めて感心しました。

二本の紐が織り成す

着付けの妙

その後、いよいよ十二単衣を実際に試着することとなり、会員の中から一人がモデルに選ばれました。山のように積み重ねられたお装束の着付けが始まります。文字通り十二枚の単衣を次々と重ね重ねていきますが、なんと使用する腰紐はたったの二本だけ。一枚目の着物を一本目の紐で締め、その上に二枚目の着物を重ねて日本目の紐で締め、最初の紐は抜き取ります。それを繰り返していくといった方法で着付けていくのです。その重量たるや相当なもので、しばらく装着していたモデルの方は言うまでもなく、記念写真のためにつかの間袖を通した会員の方も、「ちよつと立ち居するだけでも大変ですね」と、その重たさを実感。華やかなる生活の見えざる苦勞を垣間見る良い機会にもなったようでした。



十二単衣は想像以上に重たかった？



1/4スケールの六条院  
源氏物語や絵巻等から再現されています。

「六條院ミュージアム」

二〇〇二年度展示インフォメーション

二月四日(月)～六月十五日(土)

「六條院行幸『藤裏葉』・出産『若菜上』」を展示。

併せて貴族や女房達の「遊び」も御覧になれます。

休館日：日曜・祝日

入館料：一般四百円 大学・高校生三百円

中・小学生二百円

見て触れて体感できる博物館。

写真撮影はもちろん、おしゃべりも可能です。

〒600-8468

京都市下京区新花屋町通堀川東入る(井筒南店ビル

五階) 風俗博物館

post@iz.or.jp (館長 井筒與兵衛)



催し物のご案内

《講演》

☆次代・神社の役割

日時・・・平成十四年三月九日(土)

午後二時十五分から

場所・・・京都府神社会館

講師・・・建築家 池田武邦先生

池田先生は、霞ヶ関ビルや新宿三井ビルなど日本を代表する高層ビルの設計を手掛けられ、最近の代表作に、長崎のハウステンボスがあります。そうしたご経験から、現在は日本の農山村から自然との共生の知恵を学び、循環型社会のグラウンドデザインづくりに心血を注いでおられます。

「自然への畏敬の念」こそがあらゆることの原因であること、また「罰が当たる・もったいない」という日本人の教えの大切さを見直す暮らしが活かされた都市づくりの観点から、お金や物の豊かさから心の豊かさへの価値観の転換についてお話いただきます。

《シンポジウム》

☆郷土のまつりを

支える人々に学ぶ

日時・・・平成十四年三月十六日(土)

午後一時受付

場所・・・京都府神社会館並びに

松尾大社境内

「郷土のまつり」の復活や振興に携わる各地域、各神社での実践にふれて、文化の継承と青少年の育成の実際を体験するシンポジウムが開催されます。

ご参加頂く団体は、「剣鉾 吉田神社今宮社大元講社剣鉾保存会」、「川上やすらい 川上大神宮」、「大石囃子 大石神社巴会」、「宮津日吉神社の伝統神事」、「石清水八幡宮復活芸能」、「倭文神社曳山行事」などです。

《第一回例会》

☆京都の躰を語る女性の会例会

日時・・・平成十四年三月二十日

場所・・・北野天満宮、萬亀楼

「包丁式参列と会食会」

(詳細は、別紙「案内を」参照下さい。)

いずれも京都府神社庁へお申し込み下さい。心よりお待ちしております。

京都府神社庁

TEL 616-0022

京都市西京区嵐山朝月町八十六番地八

電話番号〇七五 八六三 六六七七

府立図書館へ行きました

インタビュールにお答え頂きました三木さんに教えて頂いた『明治天皇紀』を求め、岡崎公園の府立図書館へ。高校生の頃によく通いましたが、新しくなった図書館は驚くばかりのハイテクを装備して、僅かに外観のみが当時の面影を残していました。

備え付けのパソコンで本を探し当てると、検索結果をプリントアウトできます。書名が不確かな場合は、著者やキーワードでさがすことも可能で、バーコードのついた検索結果を受付に出すと、自動化された書庫からすぐに本が出てきます。マルチメディア閲覧室には、CD-ROM、インターネット、ビデオ、オーディオ、貴重図書データベースなどのコーナーがあり、インターネットは一人一回一時間、一日三回まで無料でした。老夫婦が仲良くパソコンの画面を覗いておられる微笑ましい光景に出会いました。もちろん若いカップルも。

『明治天皇紀』は、全十二巻の膨大な資料で、ご誕生当日の記述だけで二十三ページもありましたが、興味深かったのは親王様のまわりに置かれる様々なものでした。守刀、天兒(あまがと)と読み、「古来嬰兒の伽として側に置き、邪気を除かしむ」とあります)、青石三個と方頭魚二尾(これはお七夜及び箸始の儀に饗する)、そして米一包と花結びの糸など。米は嬰兒の場所を移す度に捲いて清めに使い、糸は嬰兒がくしゃみをする度に結び目を作り、これが多いほど長寿が約束されるのだそうです。まじないだ、気休めだといえどもそれまでも知れませんが、成長の無事を願い、人智を超えた力に助けられたという親の思いが、どこかユーモラスに伝わりました。

(む)